

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3570700314		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はぴね周南		
所在地	山口県下松市生野屋南1-7-10		
自己評価作成日	平成24年8月22日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年9月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑で育てた野菜を料理して食べる等、普通の生活をするということを大切にしている。</li> <li>・地域の一員として社会貢献しながら、地域に根ざし生活者として暮らせるよう取り組みをしている。</li> <li>・認知症デイとの連携もあり、日々の中にたくさんの楽しみがあり、自分で選択しながら参加できるよう取り組んでいる。</li> <li>・ご入居者様心が穏やかに安心して暮らせるよう研修を充実させ、職員の認知症についての理解を深め寄り添う介護を実践している。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>職員で話し合い、就業時間の検討をされ、利用者の習慣や希望にそって16時30分から19時30分まで夜間入浴を取り入れ、安眠効果につなげられるなど、利用者一人ひとりが普通の生活が送れるように支援しておられます。毎日利用者と職員と一緒に地域の小学校の下校時の見守りや通学路の安全パトロールをしておられる他、月2回の地域交流センターや地域の清掃活動に参加されたり、法人の夏祭りに参加される地域の方と交流されるなど、地域とつながりながら暮らしていけるよう支援をされています。利用者の希望にそって、社交ダンス、コーラス、家庭菜園、ボランティアの協力による押し花教室、民謡、書道、手工芸作品づくりなどを楽しんでおられ、手工芸作品のお手玉や竹トンボ、牛乳パックを利用したぼっくりは地域の保育園に贈り喜ばれています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つのPというはびねの特有の運営理念があり。その理念に基づいて日々介護に従事している。理念の共有と実践を図るため、研修を実施している。年に2回の評価時には達成度の評価も行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念を事業所の理念としており、職員は共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のクリーン作戦を毎月実施。夏祭りへご招待。花岡小学校のスクールガイドボランティアとして毎日の交通安全パトロールを実施。地域の音楽祭へ出場。中学生の体験学習受け入れ。	自治会に加入し、自治会の行事や集会に参加している。法人主催の夏祭りや、参加者と交流している。小学校の下校時の見守り活動や通学路の交通安全パトロールでの児童とのふれあいや、毎月近隣のクリーン作戦に参加するなど、事業所自体が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や、地域の介護セミナー等でお話をさせていただいている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を踏まえさらなる質の向上を意識している。	管理者が職員に評価の意義や活かし方を説明し、全職員で自己評価に取り組み、各ユニットリーダーと管理者でまとめている。評価後、職員で取り組みや課題を話し合い、地域とつながりながら暮らしていく事の重要性を職員は再認識し、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際の活動状況を見ていただくことに重点を置いている。その上でご意見をいただき日々の運営の参考としたり改善をしたりさせていただいている。	民生委員、利用者、家族、他事業所の管理者、地域包括支援センター職員、管理者、リーダーで2ヶ月に1回開催している。利用者の状況やサービスの内容、行事報告をし、意見交換をしている。自治会長が参加することもあるが不定期で、参加者が少ない。	・参加メンバーの検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何でもオープンにご報告、ご相談させていただきようとしている。	市担当課や地域包括支援センターとは日頃からケアサービスの取り組みや状況を伝え、協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修を実施し、身体拘束を行わないケアを意識しているが、環境的に施錠せざるを得ない箇所もある。また、ベッド柵の使用についても、ご本人様の安全を確保するため、ご家族からに依頼でやむを得ず使用しているケースもあるが、市役所にも内容を報告する等慎重に対応している。	身体拘束モニタリングを毎月1回行い、利用者の身の安全を重視しながら職員間で良く話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。2階のエレベーターは開錠しており、安全に過ごせる工夫に取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修を実施している。接遇や言葉使いも含めた心理的虐待防止に重点を置いた取り組みをしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修を実施している。現在この制度に該当する方はおられない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には不十分と感じられることがあるかもしれないが、運営規定や重要事項説明書等も丁寧に説明をさせていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口は明確にお伝えし、苦情の箱も設置をしている。家族会や、ご家族アンケートを毎年実施する等、苦情に繋がりそうなご意見も含めて見過ごすことなく拾い上げできるだけ早く対応するよう心がけている。	年2回家族アンケートを実施し、結果を分析して、満足度や意見を把握している。家族会開催時や来訪時、行事参加時などに意見や要望を聞いて、それらを運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、外部機関を明示している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し、全体会議の中で意見を聞くようにしている。都度報告や相談を受けたときは、すぐに対応するよう心がけている。	毎月1回の全体会議、ユニット会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。日々の業務の中で、随時、気づきや意見を聞き、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成24年4月～常勤パートを3年以内に全員社員化することとなった。評価に応じて、時期が早まる等、能力に応じた内容になっている。1日の労働時間も8時間から7.5時間に短縮。また、社員以外にもボーナスが支給される等、給与面での処遇も良くなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や介護技術の勉強会を内部で開催し、介護福祉士や認知症ケア専門士の試験合格を目指し育成している。外部研修では、他施設から講師を招き、介護技術の研修を行う等の取り組みをしている。	内部研修を毎月1回開催し、各職員毎に会議や研修のレポートをファイルし、必要な知識を共有している。外部研修は段階に応じて受講の機会を提供している。介護福祉士や認知症ケア専門士、介護支援専門員等の資格取得について情報の提供や研修の受講の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会を2ヶ月に1回開催情報交換している。また、今期も職員の交流会を開催予定。ネットワークを広げ、下松市のGH全体で介護者の質の向上を図る。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早い段階から担当を決め、担当者が中心となって、側に寄り添いニーズをひきだすよにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やリーダーがじっくり時間をとり、関係性の構築を意識している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言葉では表せない、または、表していない思いを汲み取り、かゆいところに手が届くような対応ができるようになりたいと心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パートナーシップは「はびね」の理念のひとつでもあるため、常にそうであるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	パートナーシップは「はびね」の理念のひとつでもあるため、常にそうであるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたいところに外出していただくことを心がけている。	友人や知人の来訪や1階のディサービスでの馴染みの人との交流、地域の敬老会、図書館、JAでの買い物等馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮、活動時の関わりの支援等、そのように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いといった定番の物だけでなく、近況報告も含め気軽に電話で話ができる関係性を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	図書館や買い物、行きたいところにお連れする、食べ物の趣向を伺う等ご本人様が、望むことを叶えていく努力をしている。	利用者一人ひとりの担当職員が、日々の生活の中での行動や表現、直接聞くなどして意向の把握に努めている。各職員が得た情報も全職員で共有し、介護計画に反映させている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、やりとり、モニタリングの実施等で把握できていると思う。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議や担当者会議だけでなく、日々の変化に応じて行っている。	本人や家族の希望、かかりつけ医の意見を聞き、6ヶ月毎にアセスメントを行い、介護計画を作成している。毎月のケア会議でモニタリングを行い、状況に変化が生じた時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	交代勤務のため、記録は必ず回覧にし、情報共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に家族が遠方にいる場合の通院の支援等でそのように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでボランティアに来ていただくことが地域との主な交流であったが、平成22年度より、地域のクリーン作戦やスクールガイドボランティア等、自分達が社会資源になるということ意識しながらの取り組みをしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日、内科と歯科往診。馴染みの主治医がいる方は、そちらにお連れする等、選んでいただける。	家族や本人の希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、訪問診療や受診支援を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHのため、特定の看護職員はいないが、計画作成担当者、管理者が免許保有しており、その任を担っている。また、緊急時にはDSの看護職員の応援も得られる等、常に安心できる環境になっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関DrやSW、NSと情報交換するように努めている。退院時の担当者会議やカンファレンスに参加、開催されない場合はサマリーを依頼する等。何らかの形で情報をいただけるよう関係作りをしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や家族会を通じて意見交換をしている。また、主治医とも必要に応じた連携をとり適切に支援をしている。	本人や家族の希望に添って対応することにしており、それを指針としている。医師との連携を図りながら早い段階から関係者で話し合い、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	研修の実施。ヒヤリハットや事故報告を全職員で共有し、再発防止に努めている。加えて、1人1人の状態を把握、起こりうる事故を想定し、「転ばぬ先の杖」を心がけている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。法人の施設長会議で事故やヒヤリハット事例を話し合い、反省や再発防止に向けた啓発を行っている。急変や事故発生時に備え応急手当や初期対応の訓練に取り組み、独自のマニュアルを作成している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や年2回に避難訓練を実施している。緊急連絡網の整備、非常時の応援体制の整備。緊急時には近くの地域交流センターが避難の受け入れ協力をしてくださる。	消防署の協力を得て、避難訓練や防災訓練を利用者と一緒に行っている。市のハザードマップを中心に想定される災害に対し、地域交流センターが避難場所となっている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修や認知症の勉強会を重ね、努力をしている。	接遇や認知症の研修を行い、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。職員の不適切な対応や言葉かけがあれば話し合い、改善に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が可能な方にはもちろんそのように働きかけているが、意思の疎通が困難だと思われるケースでも、きちんと説明し、実行した際の態度や表情から思いを読み取るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長期入居者様が多くほとんどの方は「特に何をしたいということはない」と自発性が乏しい。たくさんのメニューから喜んでいただけそうなものへ参加を促すというケースがほとんどだが、希望のある方はそれを尊重している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ケアプランにお化粧品や髭剃りといった部分を盛り込み、必ず支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	そのように努めている。	昼食と夕食は事業所の厨房からの配食を利用し、朝食は事業所で調理している。利用者は、畑でとれた野菜の下ごしらえや配膳、盛り付け、片づけを職員と一緒にして、食事を楽しんでいる。おやつを作り、ディーサービスの利用者と「ハッピーパーティー」(茶話会)をするなど食を楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や栄養状態の悪化から、せん妄が現れたり、認知症が進行するケースがあることを周知徹底しているため、適切な支援ができている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのようにしている。歯科医にも定期的に往診していただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	幸い居室にトイレがあるため、比較的軽度になられても、トイレで排泄できるケースが多い。	トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給及び、お茶寒天の摂取等、日常の生活の中で気をつけている。併せて個人ごとの状態を把握し、主治医との連携のもと、必要な方は服薬もされている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	昨年まで、週3日(夏季は4日)の入浴日に入浴をしていただいていたが、今は週3回は原則で、希望があれば毎日入浴できるようにしている。それでも、職員の配置人数や就業時間の制約があり、ご入所様の希望通りにはできていない。	毎日、16時30分から19時30分まで一人ひとりの希望に合わせた入浴を楽しめるよう支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように支援しているが、生活のリズムを整え夜間、良い状態で睡眠が得られるよう、日中の休息時間は長くないように心がけている(趣味的活動をしていただく等退屈させない支援等)		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	演芸活動、手工芸作品作り、コーラス活動、社交ダンス、習字、お茶、DSと合同のハッピーパーティー、散歩等多彩な趣味活動の支援をしている。	園芸活動、手工芸品づくり、社交ダンス、コーラス、習字、お茶会、押し花教室、竹トンボ、お手玉、牛乳パックのぽっくり作り、ディーサービスと合同でのハッピーパーティーなど、楽しみ後田や活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせる世に支援している。牛乳パックのぽっくりは保育園に贈り、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の要望は出来る限り対応するように努めている。希望がなくても、戸外で外気浴をしたり、ドライブや外出する機会を設けるようにしている。お誕生月には本人の希望により日帰り温泉に行くといった個別の対応もしている。	散歩や買い物、ドライブ、園芸活動、誕生月の利用者の希望にそった外食、温泉めぐり、季節毎の花見(梅、桜、紫陽花、ポピー、菖蒲、こすもす)、梨狩り、りんご狩り、ぶどう狩り等外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や経済状況に応じた対応をしている。買い物の希望があれば付き添う等の支援をしている。金額に関してはおこづかい程度ということで調整させていただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や温湿度には十分配慮している。また、職員が自発的に窓辺に花を飾ってくれるなどして、いつも居心地がいいと感じる。	リビングは明るく、遠くの景色が眺められ、キッチンからはご飯の炊ける匂いがして季節感、生活感が感じられる。壁には手づくりのカレンダー、貼り絵、行事の写真等が飾っており、和室や談話コーナーに利用者同士がくつろぐ居場所があり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	加えて、お互い不快にならないような座席の配慮も心がけている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている。状況に応じて、配置を変える等、ご本人にとって居心地の良い環境を整えるように努めている。	ベット、椅子、タンス、鏡台、テレビ等使い慣れた物を持ち込み、家族写真、手づくり作品、居室の洗面台には生花を飾って、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面で難しいこともあるが、ソフト面は出来る限りそうしている。		